

令和2年度（第64回）

岩手県教育研究発表会発表資料

特設分科会 2

校種間におけるカリキュラム・マネジメント

新設教科「地域創造学」を中核とした教育課程等の  
開発による社会的実践力の育成

— 小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして —

令和3年2月9日  
住田町教育委員会 千葉邦彦  
住田町立有住小学校 菊池雅子  
住田町立世田米中学校 細川遼太  
岩手県立住田高等学校 菊地 均

## 1 はじめに

住田町教育委員会では、平成29年度から4年間の文部科学省研究開発学校指定を受け、「子どもたちに新しい時代を切り拓くために必要な資質・能力や心の豊かさを育成するため、小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして、新たに教科『地域創造学』を新設した場合の教育課程、指導方法及び評価方法等の在り方に関する研究開発」に取り組んでいる。今年度は研究指定の最終年次にあたるが、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、指定期間が来年度まで延長されることとなった。

## 2 研究開発の概要

### (1) 研究のねらい

岩手県の中山間地域に位置し、豊かな自然に恵まれた本町は、人材の流出、地域の疲弊・衰退への不安という課題に直面してきた。町及び教育行政はこれらの課題に向き合い、人材育成を最重要課題として、これまでもその風土を生かした教育を推進し、一人一人の児童生徒に自分のよさや持ち味を発揮しながら意欲的に学習に取り組ませることを通して、素直で心優しい心情や態度を育んできた。しかし、本町に限らず、地域を支える人材の流出は後を絶たない。

その一方で、時代の移り変わりによって価値観が多様化する中で、これからの子どもたちには、正解のない問題を他者と協働して解決に当たろうとする力や、複数の正解がある社会に対応し、乗り越えていく力を身に付けていくことが求められている。

このような地方の現状や求められる資質・能力の変化の中で、本町においては、地域の未来を担う人材を育成しようとする意図的な学習を通して、これからの時代を切り拓き、逞しく社会を生きようとする資質・能力を育んでいくことができるのではないかと考えた。

そこで、教育研究所を母体とする町内5校（世田米小学校、有住小学校、世田米中学校、有住中学校、住田高校）が一体となって具体的に育むべき資質・能力を明らかにし、地域に根付く特色ある産業や豊かな自然、人々の営み全てを教育資源として活用した小・中・高のつながりのある学びの実現を、「新設教科『地域創造学』を中核に据えた教育課程の実施」を通して図ることを目指す研究開発に取り組むこととした。

### (2) 研究の概要

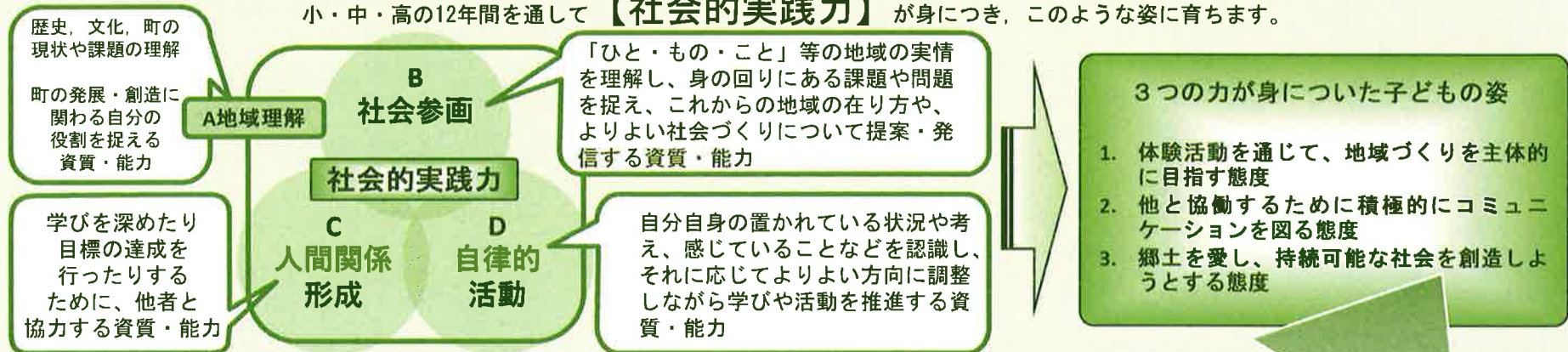
新設教科「地域創造学」を中核に据え、小学校から高等学校まで一貫した12年間の教育課程と指導方法、評価方法等の開発を行う。具体的には以下大きく3点について、具体的な研究実践を通して提言を行う。

- 「社会的実践力」を育むため「地域創造学」を据えた教育課程の編成をすること
- 「社会的実践力」を効果的に育む指導方法を探ること
- 「社会的実践力」を評価するための具体的指標の開発を行うこと

# 住田町研究開発グランドデザイン

～第9次住田町教育振興基本計画 基本目標～  
生涯学び続け、新しい時代を切り拓く心豊かな人材育成

小・中・高の12年間を通して【社会的実践力】が身につく、このような姿に育ちます。



そのために住田町では、平成29年度から4年間にわたり、文部科学省・研究開発学校指定の教育活動を推進しています

## 新設教科【地域創造学】

【目標】  
住田町及び近郊地域社会をフィールドにした横断的・総合的な学習を、探究的な学習活動を意図的・計画的に行うことを通して、新しい時代を切り拓き、社会を創造していくための社会的実践力を身に付けた心豊かな人材を育成することを目指す。

### 横断的・総合的で 探究的な学びの実現

➤ 探究のプロセスを  
6つの要素に整理



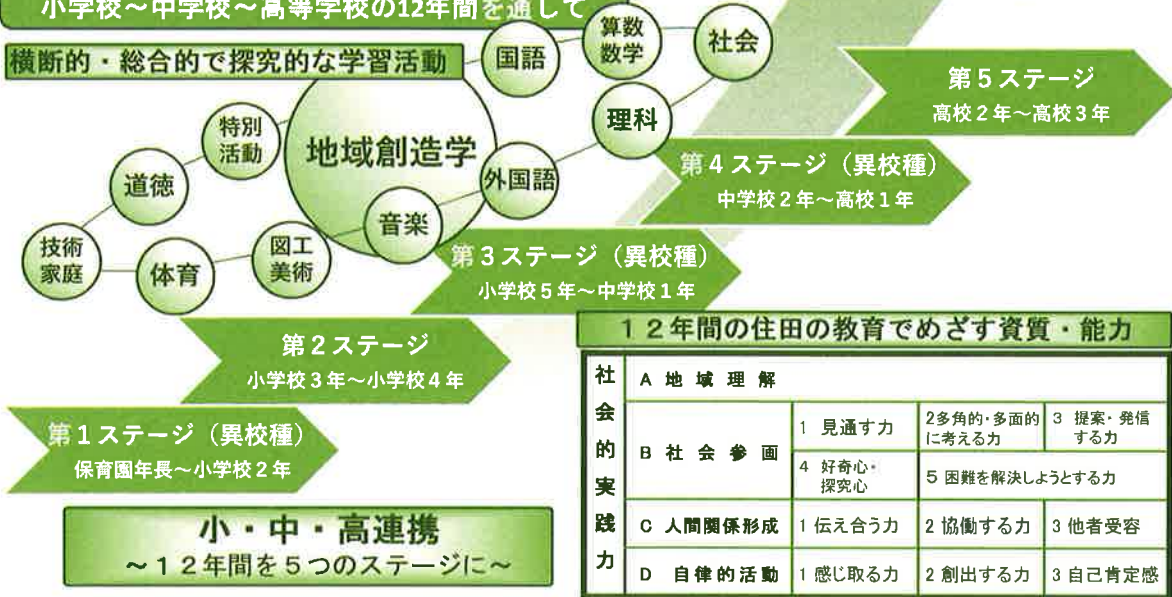
### 地域との協働

➤ 地域創造学の目標を町民と共有  
➤ 外部人材の活用

## ～住田の教育のしくみ～

小学校～中学校～高等学校の12年間を通して

横断的・総合的で探究的な学習活動



### 12年間の住田の教育でめざす資質・能力

社会的実践力	A 地域理解			
	B 社会参画	1 見通す力	2 多角的・多面的に考える力	3 提案・発信する力
	C 人間関係形成	1 伝え合う力	2 協働する力	3 他者受容
	D 自律的活動	1 感じ取る力	2 創出する力	3 自己肯定感

## 小・中・高連携

～12年間で5つのステージに～